学校のようす　創形美術学校との連携授業　講師　鈴木　吐志哉　氏（創形美術学校）

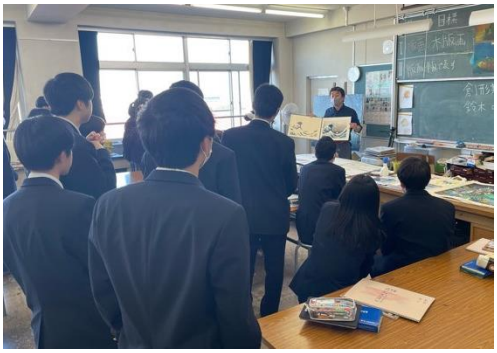
１年生　美術Ⅰでの取り組みの紹介

授業の目標

版画表現について伝統的な技法の理解と鑑賞、表現活動を通して全体的に学ぶことを目標としました。版の制作ばかりではなく、印刷という活動を通して色の重なりや摺りの面白さ、表現活動の喜びを体感できる学習活動をしたいと考えました。

木版画技法を活用した凸版印刷の理解授業（創形美術学校との連携授業）について

鑑賞活動①



葛飾北斎「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」の鑑賞。11 版までの制作の工程と版の重なりで作品が仕上がる過程を実物で鑑賞しました。最終的に刷り上がった作品を用いてアーティストトークで内容を深めました。版自体は昭和初期に彫られた貴重なものです！

デモンストレーション

昭和初期に彫られた版木を使用しての印刷のデモンストレーション。鑑賞と表現を交互に行い生徒の作品への表現理解を深めました。生徒が実際の版木に摺る体験を通して作品への愛着と伝統的な技法の理解を深められました。

鑑賞活動②

創形美術学校で制作された作品の鑑賞。凸版、凹版、平版、孔版の各種類の作品があり、手にとって観たり、インクの盛り上がりを触ったりして体験的に表現理解を深めました。

表現活動

１、正方形の版木を思うままに彫る。抽象表現となるため感覚的に彫り進めます。（10 分）
２、油性インキで印刷します。（1 摺り目）
３、見当に注意しながら版を 90 度回転させて別色で印刷します。（2 摺り目）
４、更に９０度回転させて別色で印刷。（3 摺り目）

３回印刷することで色の重なり合いや補色の効果、思いがけない変化などを体験的に学べました。

自然発生的な鑑賞

感覚的に彫り進めた版、偶発的な色の重なりの効果を経て現代的な作品へと仕上がったので生徒の満足度は高い授業になりました。相互鑑賞の時間が取れなかったのですが生徒はそれぞれの作品を自然に鑑賞しあい、色について意見を言いあい、作品の持つ重厚感や面白みを自由に話していました。思い思いの言葉が発せられ豊かな時間を共有できました。個別の鑑賞については一人１台端末のアンケートフォームを活用して提出してもらいました。